

講評 グループ 1,2

清家 正博 日本医科大学 呼吸器内科学分野 大学院教授

グループ 1:

基礎研究の成果を臨床研究に応用するプロセスが Translational research (TR) です。私も常に患者さんのためになる創薬を目指して TR を行っていますが、成果を出せないままジレンマを抱えながら研究を行っております。グループ 1 は、本邦や本学における TR の現状や課題をリサーチし、今後の TR を実施するための必要なプロセスや出口戦略について考察した素晴らしいご発表でした。私も改めて TR について多くのことを勉強させて頂きました。

日本の TR の課題としては、臨床医においては、多忙な臨床、学位論文優先のための特許申請の制限、基礎医学においては、臨床に直結しない研究、社会・臨床シーズが見つけれられないこと、企業側では、どこにシーズがあるかわからないこと、などの課題が挙げられました。従来からの論文発表を目指す研究と臨床応用を目指す産学連携では考え方が異なることを認識する必要がありますが、課題解決の糸口として、シーズリスト作成によるマッチング、ポテンシャルのある基礎研究発掘、基礎研究者の TR 理解の推進、などを提案されていました。

実際には、「何を始めればよいかわからない」と感じている研究者が大多数と思いますが、本学には、誇るべき臨床研究や特許に関する専任スタッフが揃っている「研究統括センター」「知的財産推進センター」があります。私も些細なことでも相談し、いつも研究のサポートをして頂いております。相談に際しては研究計画が未熟な状況であっても早めに相談することで、思いがけず特許などに繋がることもあるかと思っておりますので、まずは相談することが大事かと思えます。

創薬に向けては、出口戦略を明確にした綿密な研究計画が求められます。しかしながら、研究は得てして計画通りに行かず、逆の研究結果が出てしまうことを多く経験します。

その中に思いがけない真実、新規知見があることがありますので、途中で諦めないでかつ柔軟な発想で、創薬も見据えながら研究を粘り強く行っていくことが大事であると私は思っております。ありがとうございました。

グループ 2:

研究と臨床の両立、女性医師のみならず臨床医にとって大変難しい永遠のテーマについて、グループ 2 では、アンケート調査を中心に生の意見を抽出し、課題点や解決方法の模索に関するご発表を頂き、大変勉強になりました。

157 名のアンケート結果からは、研究と臨床の両立は、「できている」 6%に対して、「どちらかといえばできていない」「できていない」 を合わせると 65%の結果であり、両立の難しさが浮き彫りにされました。しかしながら、「研究への興味がある」 は 72%を占め、臨床での疑問を追求したい、と考えている意識の高い医師が本学には多くおられることを再認識しましたが、臨床

業務や家事育児の多忙、苦手意識、研究費や指導教官の問題などが原因で両立の困難さを多く感じている医師が多いことが改めてわかりました。

研究＝基礎研究と考えている医師も多い印象も受けました。研究は、実際にピペットを握って行う Nature、Science を目指した基礎研究や Translational research のみならず、臨床研究、症例報告や学会発表など多方面に渡ります。論文も英文のみならず日本語論文や総説なども立派な研究成果であると私は考えます。子育て、介護など様々な多忙な状況にあっても、「研究心」を忘れずに、その時にできる研究をすれば良いのではないかと思います。また色々な労働環境の変化は、研究を後ろ向きに捉えるのではなく、今までできなかったことやちょっとした新たな研究を始めるチャンスかもしれないので、難しい状況下ではありますが、柔軟に対応頂ければ良いのではと思います。

本学においては、研究補助員確保、臨床での医師負担軽減など、臨床と研究の両立に向けた環境整備の取り組みがなされているようですので、今後少しでも研究と臨床が両立できるよう私を含めた教員もより一層努力をしていきたいと考えております。

ありがとうございました。

講評 グループ 3,4

清水 章 日本医科大学 解析人体病理学

グループ 3 およびグループ 4 では、非常に限られた時間の中でアンケートを行い、集計し、グループワークから、現実的な提案としてまとめられて発表されたこと、誠に有意義だと感じています。今後の本法人での研究活動にとって、とても大切なことが提示されています。連携機関（日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社）で働いている職員、教員、大学院生、研究者の方たちからのアンケートの結果をもとに議論が展開されています。異なる職種や様々な視点からの貴重な意見が集約されており、しっかりした現状の把握と、それに基づいた具体的な提案がなされていると思いました。

グループ 3：

現在の男女平等の推進や日本全体での働き方改革の流れから、研究者も指導者も意識改革が必要なことはいうまでもありません。今回のアンケート結果では、研究成果は費やす時間にある程度比例するという意見が多くみられました。しかし、個人の働ける時間は限られています。この限られた就労時間の中で効率をあげるための提案がなされていました。

グループ3: 研究の効率化と生産性の向上

- 研究時間の確保や効率化の個人の研修や組織マネジメントからの改善
 - 教育方法の工夫や学生の自己学習教育導入による過剰な教育負担を減らす工夫
 - 追求しすぎて起こる学生教育の諸問題
 - 研究者をサポートする補助員や施設が生産性に及ぼす影響
 - 研究者の環境システムによる効率化
 - 家庭内だけでは解決できない家庭活動の社会問題による影響
- 調査・考察して、改善策を提案する。

教育関連：

- 教育担当講師の充実
- 講座内での全教員・スタッフによる教育システムの構築
- ★個人の負担の軽減

研究の効率化と生産性の向上：

- 最先端の共通機器の使用手続きの簡便化・使用方法の改善
- 最先端の共通機器の専任の技術員（オペレーター）の充実
- 研究支援員配置の充実

研究成果のあがらない理由：

- ★『自身の能力』が最多数あげられている。
- 本学の研究者は、責任感が強く、ストレスにさらされやすいというアンケート結果。★環境整備やコンサルタントの充実

教育関連では負担軽減の工夫や予想される諸問題が取り上げられました。限りある就労時間の中での教育と研究の時間配分は重要な課題です。医学部・獣医学部での次世代を担う医師・獣医師を育てることは使命です。効率良い教育のための工夫として、現在進行している教育担当講師の充実や講座内での教育システムの構築が大切で、担当する教員個人の負担にならないようにすることが大切であると認識しました。

また、研究の効率化と生産性の向上には、共通機器の使用について、また研究支援員の配置が重要であることが示されました。質の高い研究には、最先端機器の使用が必要であり、本学ではその機器の多くが共通機器として導入されています。その共通機器の有効活用のためには、使用のしやすさが重要で、使用の手続きや使用方法の改善、オペレーターの充実が掲げられ、共通機器の運営部署への、研究者からの現実に即した意見・働きかけや、それを検討・改善するシ

システムの重要性を認識しました。『研究者個人につく専任の研究支援員』はすでに始められていますが、研究者個人の研究員は、研究室にいる技術員とは全く異なる次元で、研究者の研究効率を上げています。この研究支援員の確保や資金には、いくつかのハードルがあると思いますが、リサーチ・アドミニストレーター（University Research Administrator: URA）の育成・確保するシステムの充実が必要だと思いました。

アンケート結果では、研究成果があがらない理由は個人の要因で、『自身の能力』が最多数あげられていました。本法人の研究者は責任感が強く、自分を追い込みストレスにさらされやすいというアンケート結果であり、研究環境の整備やコンサルタントの充実は大切な課題であると認識しました。

グループ4：

コロナ禍における研究や生活についてアンケート調査・集計が行われ、グループ内で検討し、現状と工夫が報告されました。この研究結果は、まさにコロナ対応の難しさを反映しており、各個人それぞれ影響が異なり、研究ばかりではなく、生活面に直接的に影響されていることが明らかになりました。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、2019年12月に、中国の武漢市で第1例目の感染者が報告され、数カ月ほどで世界的にパンデミックと言われる大流行になっています。日本では2020年1月15日に最初の感染者が確認された後、現在でも第7波として流行し、その影響は継続しています。

アンケートの結果では、研究に関して研究時間が減った方や逆に増えた方もおられ、コロナ禍での現状のメリット・デメリットの両面を判断し、個人の生活や家族の生活、研究活動が行われていることが報告されました。家族の介護や福祉施設の制限、子供の休園・休校などの社会環境が家庭内に大きな影響をおよぼし、研究面にも影響し、負担が増加している現状も報告されました。

グループ4：コロナ禍のキャリアアップの進め方 コロナ禍で研究者が受けた制約を明らかにし、 改善策・対応策を検討 1. コロナ禍の研究環境（時間・空間・人的制約、学会、留学の制約） 2. コロナ禍の家庭、育児の環境（休園、休校、研究者、家族の感染） 3. コロナ禍で増えた負担と現状の対応（仕事、生活、研究、精神） 4. コロナ 禍でキャリアアップをするための工夫（IT 活用など ハイブリッド学会 参加など） 5. コロナ禍で研究業績を伸ばすためにお勧めのツール オンラインツールの普及	COVID-19 感染症 ・ 2019年12月 中国 武漢市 第1例目 ・ 2020年 1月15日に本邦で第1例目 現在、第7波 流行中 東京都の感染者数（1日ごと） 7月26日 31,593人 学会のオンライン・ハイブリッド開催 メリットとデメリットを理解して活用 オンライン 講習会・英会話などが充実 スキルアップの良い機会 対面の制約 こんな時期だからこそ学内での ・ 研究者間・研究室間の情報の共有 ・ 臨床と基礎との連携 今後もIT技術が進歩、これら理解し、最大限に活用 IT の専門家の配置、IT関連の講習会の必要性
--	---

一方、オンラインツールの急速な拡大に伴うメリットや IT 活用による工夫がなされており、新しい知識の習得、実験や研究技術・外国語能力や事務処理能力の習得・向上など積極的にキャリアアップのためのスキル向上が行われていることが報告されました。オンライン英会話、オンラ

イン講義や講習会に加え、オンライン学会やハイブリッド学会など、それぞれのメリット・デメリットを理解した上での研究活動を行うことの必要性が示されました。また対面での活動が制限され、コミュニケーションが取り難い状況です。研究とデューティとのバランスなど施設内での調整や研究者間や研究室間での人間関係の充実、情報の共有や、臨床と基礎との連携など学内での強化も重要であると思いました。

今後ますます遠隔システム、オンラインツールの拡大が予測されます。Web会議を利用した研究情報の獲得、施設間での研究情報の共有、研究会や講習会の開催などが想定されます。ITの専門家の配置やIT関連の講習会により、これらのオンラインツールを最大限に活かせるための工夫が必要と考えました。また、対面での活動の制限から、人間関係や人と人のつながりが重要になります。同僚や研究者間で互いに尊重し合い、認め合い、補い合う、人間関係や人と人のつながりが楽しい研究生活には非常に重要であると再認識しました。まだまだコロナ禍が継続していくと思われます。これを良い機会と前向きに捉え、スキルアップを充実させ、研究活動につなげて頂きたいと思います。また、それを実行することが可能な環境整備の必要性を認識しました。

第3回 女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクト研究発表会のグループ3とグループ4の研究発表では、アンケートからの実際の意見に基づいた提案がなされ、研究活動の向上に直接関連する重要な提案であると思いました。これらの情報をより広く共有することで、多くの方が共通認識として持てるように、情報を共有することの重要性を認識しました。今回の研究発表会がそのような良い機会になることを期待しています。また、事実に基づいた多方面からの提案を、具体的な改善につなげ、研究しやすい環境を研究者、指導者、職員全員で築き上げることの重要性を再認識しました。

第3回女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクト研究発表会 開催報告

日時	2022年7月28日（木） 16:00～17:30
会場	会場（日本医科大学講堂）+ オンライン（Webex）
主催	日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファア株式会社
対象	日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファア株式会社に所属する教職員、大学院生、ポスト・ドクター
ご挨拶	弦間 昭彦（日本医科大学 学長） 土佐 眞美子（しあわせキャリア支援センターセンター長）
講評	グループ1・2 清家 正博（日本医科大学 呼吸器内科学 大学院教授） グループ3・4 清水 章（日本医科大学 解析人体病理学 大学院教授）
座長（司会）	前半 神田 奈緒子（日本医科大学） 後半 山本 昌美（日本獣医生命科学大学）
申込数	36名
内訳	日本医科大学25名、日本獣医生命科学大学8名、アンファア3名
参加者	48名（主催関係者7名含む）
アンケート回収	26件 回収率 63.4%

プロジェクトスケジュール

メンバー募集	4月11日（月）～4月28日（木）
	4月13日（水）日医大教授会アナウンス
グループ発表	5月 9日（月）
オリエンテーション開催	5月16日（月）16:00～17:00
リーダーと研究テーマの報告	5月23日（月）
グループ研究期間	5月25日（水）～7月1日（金）
レポート提出	7月15日（金）
研究発表会	7月28日（木）16:00～17:30

2022 年
7 月 28 日 [木]
16:00-17:30

日本医科大学
教育棟講堂
＋
オンライン開催



「女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクト」は、連携機関（日医大、日獣医大、アンファー株）に所属する女性・若手研究者、大学院生、ポスドクなどが集結し、今後の医学・生命科学研究者のキャリア形成に関して研究するプロジェクトです。第 3 回は 24 名が参加しています。

第③回 女性・若手研究者 キャリアデザインプロジェクト 研究発表会 プログラム

16:00 開会

Opening remarks: 弦間 昭彦 日本医科大学 学長

16:05 発表 グループ1 「トランスレーショナルリサーチの進め方」

16:20 グループ2 「研究と臨床の両立」

16:35 講評 清家 正博 日本医科大学 呼吸器内科学 大学院教授

16:45 発表 グループ3 「研究の効率化と生産性の向上」

17:00 グループ4 「コロナ禍のキャリアアップの進め方」

17:15 講評 清水 章 日本医科大学 解析人体病理学 大学院教授

17:25 閉会

Closing remarks: 土佐 眞美子 しあわせキャリア支援センター長

主 催
問合せ

日本医科大学 / 日本獣医生命科学大学 / アンファー株式会社
しあわせキャリア支援センター e-mail: app-shien@nms.ac.jp TEL: 03-3822-2131

グループ 1: Transrational research の進め方

大倉 定之 (リーダー)¹ 大塚 真衣² 仁藤 智香子³ 波間 隆則⁴ 春名 孝洋⁵ 盛 佳旦⁶

¹ 日本医科大学 微生物学・免疫学分野, ² 日本医科大学 解剖学・神経生物学分野, ³ 日本医科大学 研究部共同研究施設, ⁴ アンファー株式会社 研究開発本部, ⁵ 日本医科大学 消化器外科, ⁶ 日本医科大学 血液内科

医療において治療薬は製薬メーカーが実用化・販売し市場に供給されるが、新規治療薬のシーズは大学研究から生み出されることも多い。大学では研究成果の中から治療に結びつく可能性がある分子や化合物が非臨床研究に進み、厳しい基準を満たした物だけが臨床研究へと進む。この基礎研究の成果を臨床研究に応用するプロセスが Translational Research (TR) である。大学における TR は厚生労働省等によって促進されるとともに、各大学でも様々な取り組みが進められている。こうした背景から、本グループでは本邦や本学における TR の現状や課題をリサーチし、今後の TR について考察した。

グループ 2 : 研究と臨床の両立

森嶋 素子 (リーダー)¹ 大内 望² 福泉 彩³ 大矢 智之⁴ 門田 寛子⁵ 神澤 慎哉⁶

¹ 日本医科大学 心臓血管外科, ² 日本医科大学 女性診療科産科, ³ 日本医科大学 呼吸器内科, ⁴ 日本医科大学 精神神経科, ⁵ 日本医科大学 リウマチ膠原病内科, ⁶ アンファー株式会社 研究開発本部

「研究と臨床の両立」について臨床経験を有する医師にアンケートを依頼。回答が得られた 157 名 (男 78, 女 79) のうち、研究と臨床が「両立できている」49 名 (31%)、両立できていない」101 名 (64%)、「両立の必要はない」7 名 (4.5%) であった。「両立できている」は女性で有意に少なかった。指導者不在、臨床が多忙、研究のやり方がわからない、研究費獲得が困難、テーマを見つけるのが困難、統計が難しい、論文の書き方がわからない、英語が難しいと感じている人は有意に「両立できていない」。研究を行う意志があっても、家庭の状況や臨床業務の多忙さ、苦手意識や研究費獲得の問題、指導を受けられる環境がないことが研究継続を困難にしていると考えられた。

グループ3：研究の効率化と生産性の向上

弓削 進弥（リーダー）¹ 遠田 悦子² 戸山 友香³ 黄 美貴⁴ 加藤 卓也⁵ 奈良井 朝子⁶

¹ 日本医科大学 先端医学研究所 病態解析学部門 / 分子細胞構造学分野, ² 日本医科大学 解析人体病理学, ³ 日本医科大学 泌尿器科, ⁴ 日本獣医生命科学大学 獣医学部 獣医学科 獣医解剖学研究室, ⁵ 日本獣医生命科学大学 獣医学部 獣医学科 野生動物学研究室, ⁶ 日本獣医生命科学大学 応用生命科学部 食品科学科 農産食品学教室

現代の研究者は、研究、研究以外の仕事、家庭での活動の全てをこなす毎日で時間が限られる中、研究の効率と生産性を最大限に上げることを必要とする。当グループは、研究の時間の確保や効率性の上昇を個人の研修や組織マネジメントで改善できる可能性、先達の教員から教育法を学んで学生が自ら学ぶ教育を取り入れて過剰な教育負担を減らす工夫、効率と生産性を追求しすぎると生じる学生教育の諸問題、研究者をサポートする人々や施設が生産性に及ぼす影響、研究者の環境システムが想像以上に効率に影響する現実、家庭活動での男女差が家庭内だけでは解決できない社会問題で研究にも影響している現状について、調査・考察して、改善策を提案する。

グループ4：コロナ禍のキャリアアップの進め方

稲垣 恭子（リーダー）¹ 小峰 壮史² 井上 由貴³ 倉岡 睦季⁴ 佐々木 和馬⁵ 長田 康孝⁶

¹ 日本医科大学大学院 医学系研究科 内分泌代謝・腎臓内科学分野, ² 日本獣医生命科学大学 獣医学部 水族医学研究室, ³ 日本医科大学 皮膚粘膜病態学, ⁴ 日本獣医生命科学大学 応用生命科学部動物科学科 実験動物学教室, ⁵ 日本医科大学 救急医学教室, ⁶ アンファー株式会社 研究開発本部

新型コロナウイルス感染症により、研究者は感染予防の制約に加え、職場や家庭で様々な制約を受けている。本研究では、コロナ禍で研究者がうけた制約を明らかにし、改善策・対応策を検討することを目的とした。方法は日本医科大学と日本獣医生命科学大学の教員、大学院学生、研究生、アンファー株式会社に対しアンケートを行い、123名から回答が得られた内容を集計した。育児介護保障問題、ストレス健康問題が明らかとなり、オンライン会議・学会は時間、場所の制約軽減に寄与する一方、負担増にも寄与するとの意見も得られた。よりよい環境構築のためには個人の負担を軽減する、これまでの欠点を克服した手法の検討も必要であると考えられた。

第3回 女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクト参加者募集要項

プロジェクトの目的と概要

2019年に採択された文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）では、ダイバーシティ研究環境の実現、女性研究者の研究力の向上・上位職への登用促進などを目的としています。

この事業の一環として実施する「第3回 女性・若手研究者キャリアデザインプロジェクト」では、連携機関に所属する女性・若手研究者、大学院生、ポストドクターなどが集結し、今後の医学・生命科学研究者のキャリア形成に関して話し合う機会を作ります。今後のキャリア形成の一助となるプロジェクトへの多くの女性・若手研究者の参加を期待しています。

プロジェクトの内容

- 1) 参加者を6人程度のグループに分け、グループごとに以下の課題のいずれかを研究する
研究の方法、形式、時間などは各グループの裁量とする
- 2) グループリーダーはレポートを提出し、レポートで評価を行う
- 3) 研究発表会、交流会を開催する
開催方法（オンライン開催、会場開催またはハイブリッド開催）は検討中
- 4) 参加の特典
本事業で実施する令和5年度の研究支援員配置制度※への応募に際し、ポイントを付与する。
グループリーダーにはさらに高く付与する。
※出産・育児・介護などのライフイベントのある研究者に限る、大学院生は対象外、日本獣医生命科学大学はポストドクターも対象外

男女問わず参加者にはポイントが付与されます。ただし、補助金の性格上、同列の場合には女性研究者が優先

研究課題

テーマ	主な内容
1. 優れた研究人材の獲得と育成	自分の研究室に優れた研究者、技師をリクルートするにはどうしたらよいか？テニュアトラックなど、どのような制度があるか？
2. アカデミックポスト獲得方法	大学、研究所の研究員公募などへの申請、自分の研究業績のアピール方法

3. 研究の効率化と生産性の向上	研究技術・研究情報(遺伝子等)・研究法規のアップデート、文献・データ管理の方法、論文・研究計画書・報告書作成のスキルアップ、カンファレンスの効率化、研究アイデアを生み、育てる工夫
4. コロナ禍のキャリアアップの進め方	コロナ禍の研究環境(時間、空間、人的制約、学会、留学の制約) コロナ禍の育児の環境(休園、休校、研究者、家族の感染) コロナ禍で研究業績を伸ばす工夫(IT 活用など)
5. 研究と臨床の両立	臨床医が研究業績を増やす方法、優れた臨床研究の考案と実践
6. 国際・国内共同研究の展開方法	共同研究に適する施設をみつけ、共同研究を進めるプロセス、成功する秘訣。成功例の紹介
7. トランスレーショナルリサーチの進め方	優れた基礎研究結果を臨床治療の成功に結びつけるにはどのような工夫が必要か？成功例の紹介

1. 対象

日本医科大学、日本獣医生命科学大学、アンファー株式会社に所属する以下に該当する方
女性研究者、男性研究者※、ポストドクター、大学院生
※男性研究者は 40 歳未満がのぞましいが限定はしない

2. 募集人数

24 名

3. スケジュール

参加応募期間	2022 年 4 月 11 日 (月) ～4 月 28 日 (木)
選考結果とグループ通知	2022 年 5 月 9 日 (月)
オリエンテーション	2022 年 5 月 16 日 (月)
研究リーダー、テーマ締切	2022 年 5 月 23 日 (月)
研究期間	2022 年 5 月 25 日 (水) ～7 月 1 日 (金)
レポート提出期限	2022 年 7 月 15 日 (金)
研究発表会と交流会	2022 年 7 月 28 日 (木) 16:00-17:30 @日本医科大学教育棟講堂+オンライン

4. 応募方法

申込フォームよりご応募ください。 <https://one-health.jp> (One Health ウェブサイト)
参加にあたり、グループでの話し合いへの参加、分担した役割を担うことが求められます。
研究方法は各グループにとって実施しやすい方法で進めてください。

5. 選考及び通知

採否及びグループ分けは、学校法人日本医科大学しあわせキャリア支援センター委員の本プロジェクト担当者が決定します。

6. 提出及びお問合せ先

学校法人日本医科大学しあわせキャリア支援センター事務室

〒113-8602 東京都文京区千駄木 1-1-5 日本医科大学図書館 1 階

TEL 03-3822-2131 (内線 5502, 5504)

✉ app-shien@nms.ac.jp



学校法人日本医科大学 しあわせキャリア支援センター

〒113-8602 東京都文京区千駄木 1-1-5

TEL 03-3822-2131

E-mail app-shien@nms.ac.jp

URL <https://www.nms.ac.jp/shien/>

<https://one-health.jp/>
